

## VI 資料

### 1 沖縄21世紀農林水産業振興計画(抜粋)八重山圏域

〈世界に誇れる日本最南端の優れた自然と農林水産業の共生〉

#### (1) 農林水産業の特徴

八重山圏域の農業については、総農家数が県全体の6%で耕地面積が21%を占めており、地域特性を生かし、さとうきび、水稻、パイナップル等が栽培されるとともに、特に肉用牛については本県一の産地となっている。また、観光客等のニーズに応え、マンゴー、パイナップル等の熱帯果樹生産が伸びており、平成25年から供用された新空港の開港に伴い、更なる進展が期待されている。

農業の品目別拠点産地については、かぼちゃ、オクラ、ヘリコニア、レッドジンジャー、パイナップル(生食用)、薬用作物(ポタンボウフウ)、肉用牛の9産地が拠点産地として認定されており、生産振興に取り組んでいる。

特に、おきなわブランドの戦略品目である肉用牛において、子牛生産の他に石垣牛等の肥育牛の生産も展開されており、生産の拡大及びブランド化に向けた取り組みが行われている。

石垣島においては、国営かんがい排水事業石垣島地区が着工し、既存水源(5ダム)を総合運用することで農業用水の再編を行い、新に石垣島北部及び西部の農地への農業用水の確保をはじめ、農業用ダムを活用したかんがい施設や区画整理及び農地防風施設等各種の生産基盤の整備が展開されており、肉用牛やさとうきびを中心に、安定的に確保された農業用水を活用したマンゴー等の熱帯果樹、熱帯性花き、野菜等特色ある農業生産が展開されている。

森林については、森林の有する多面的機能を発揮するため、特に木材生産や水源かん養を目的に森林の整備を行っている。

水産業は、恵まれた海域条件を生かした一本釣り、潜水器漁業、パヤオ漁業、近海まぐろ延縄漁業等が行われており、また、クルマエビやモズク等養殖も生産を伸ばしてきている。

また、本圏域は自然に恵まれ、体験・滞在型のグリーン・ツーリズム、森林ツーリズム、ブルー・ツーリズムを通じた地域活性化が期待される地域である。

項目	数量	県対比 (%)	備考
農家総数	1,249戸	6.2	2015年農林業センサス (平成27年)
販売農家数	1,172戸	8.2	
主業農家数	471戸	9.5	
農業就業人口	1,582人	7.9	
耕地面積	7,986ha	20.7	耕地面積調査 (平成27年)
田	493ha	58.0	
畑	7,501ha	19.9	
林野面積	40,857ha	36.7	2015年農林業センサス (平成27年)
漁業経営体数	265経営体	10.1	2013年漁業センサス (平成25年)

#### (2) 振興方向

##### ア 農業

本圏域の農業は、亜熱帯気候特有の自然条件を生かし、地形、土壌、気温等に適応した品目が生産されている。その中でも肉用牛を筆頭に、さとうきび、葉たばこ、水稻、パイナップル、豚、マンゴー、花きなどが盛んである。それ以外の野菜、熱帯果樹、薬用作物、畜産等についても多様な品目で展開しており、おきなわブランド育成を図り、農家経営の安定に資するためには品目の選択と集中による拠点産地を形成し生産振興を推進する。

畜産については、畜産クラスターの仕組み等を活用し生産基盤の強化を図るとともに、経営安定対策等を実施する。

また、かんがい施設や区画整理等の生産基盤の整備を推進するとともに、既設施設の再編・更新を図り、農業用水の有効活用等を促進する。さらに、台風等気象災害から農作物被害を防ぐための防風林整備や赤土等流出問題の総合的な対策を推進し、農地保全及び環境負荷の低減を図る。さとうきび、パイナップル、水稻などについては、生産性及び品質の向上に努め、肉用牛、野菜、花き、果樹などについてはブランド化を推進する。

さらに、新規就農者等の育成については、経営資源の提供や研修の開催、経営・技術指導等の支援など強化を図る。農林水産業を取り巻く研究課題については、生産現場や普及指導機関等との連携を図り、課題解決と迅速な普及を推進する。

また、観光リゾート地域としての特性を生かし、これら観光施設への供給等域内の需要に対応した野菜、熱帯果樹等の生産拡大に努め、地産地消の促進を図るとともに、体験・滞在型のグリーン・ツーリズムを促進する。

周辺離島の竹富町の西表島においては、さとうきび、パイナップル、熱帯果樹、かぼちゃ、水稻等を中心に生産の振興を図るとともに、肉用牛との経営の複合化を促進する。

波照間島については、さとうきびを中心に肉用牛、モチキビ等、小浜島については、さとうきびを中心に肉用牛等、黒島については、肉用牛の振興を図る。

与那国町については、さとうきび、水稻、肉用牛、薬用作物の生産を振興し、経営の複合化を促進する。

(ア) さとうきび

生産性及び品質を向上させるために、優良品種の増殖普及や適期栽培管理、株出栽培体系の推進、有機物の施用や緑肥作物の栽培、防風・防潮林の普及啓発等を図るとともに、肉用牛との複合化や葉たばこ・野菜等との輪作体系を推進していく。

また、さとうきび経営安定対策に対応した担い手を育成するため、農地所有適格法人、農作業の受託組織等生産組織を育成・強化するとともに、「さとうきび増産計画」等に基づき、生産者をはじめ、関係者が一体となった増産対策により、生産の増大に向け取り組む。

(イ) 野菜

定時・定量・定品質の安定生産を図ることを基本に、気候変動等に対応したハウスや防風・防虫等ネット栽培施設、農業用機械の導入を促進し、かぼちゃ、オクラ、ゴーヤー、さやいんげん等の安定生産に努めるとともに、土づくり、防風対策、販売対策の強化により生産拡大を図り、拠点産地の形成・育成を推進する。また、農業団体等と連携し、流通・販売体制の強化を図る。

(ウ) パイナップル

パイナップル栽培に適した酸性の国頭マージ土壌の地域では、生食用品種を中心に生産が行われおり、観光産業へも大きく貢献している。

今後とも生食用優良品種の導入及び開花処理技術の組み合わせによる出荷期間の拡大、農業用機械等の導入等により生産性及び商品価値の向上を図るとともに、生食用果実の生産拡大を推進する。また、農業団体等と連携し、流通・販売体制の強化を図る。

(エ) 熱帯果樹

マンゴーについては、優良品種の導入、栽培技術の改善、気候変動等に対応したハウスの導入などを図る。観光産業へも大きく貢献しているマンゴー、パパイヤ、パッションフルーツ、バナナ等の安定生産及び品質向上を目指し、拠点産地の形成・育成に努める。また、農業団体等と連携し、流通・販売体制の強化を図る。

(オ) 花き

防風・防虫等ネット栽培施設や気候変動等に対応したハウス等の整備、新技術の普及を推進し、レッドジンジャー、ヘリコニア等熱帯花き拠点産地としての周年安定出荷体制の確立、ブランド化の推進に努めるとともに切り葉等の生産拡大を図り、流通・販売対策の強化を推進する。

(カ) 水稻

栽培技術及び病虫害防除技術の向上等により安定的な生産を図る。さらに、消費者ニーズに対応して環境に配慮した米づくりを推進するとともに、生産コストの低減を図り、所得の向上に努める。

(キ) 葉たばこ

生産性及び品質の向上や作業の省力化に努め、安定的な生産を図る。

(ク) 畜産

肉用牛については、ブランド化の推進、自給飼料基盤の整備、優良種畜の導入・育成、放牧地高度利用の推進及び飼養衛生管理技術の改善等により、供給基地としての産地形成を推進する。さらに、生産基盤強化のため畜舎の整備等を行う。

また、畜産の環境対策を促進するため家畜排せつ物処理施設の整備を推進し、耕畜連携による資源循環型農業を促進するため、堆肥センターの活用を推進するとともに、地力の維持増進を図り、飼料自給率の向上に努める。

イ 森林・林業

水源地域においては、水源のかん養を図るための森林の整備及び保全を推進するとともに、その保全のために保安林の計画的な指定や適切な管理、治山施設の整備を行う。

貴重な動植物が生息・生育する森林については、適正な保全を図りつつ、森林環境教育や保健・休養及び森林ツーリズムの場として森林の整備を推進する。

さらに、森林・林業に精通したガイドの養成等を図り、森林ツーリズムを推進する。

また、木材の生産を重視すべき区域においては、林業の持続的かつ健全な発展を図るため、森林組合等林業事業者の支援を行う。

(7) 林産物

リュウキュウマツ等の計画的な生産及び収穫伐採体制を確立するため、効率的な伐採技術の確立、及び流通・販売体制を強化する。また、木炭等の生産拡大に努める。

ウ 水産業

地域特性を生かした水産業の振興を図るため、漁港・漁場等の生産基盤を整備し、生産体制を強化する。

また、流通・販売体制の強化を図り、販路の確保・拡大に取り組む。

漁業者等に対して各種学習会や巡回指導を実施することにより、漁業者の資質向上、資源管理に対する啓発を図るとともに、漁業後継者の育成を行う。

さらに、地域資源の利活用や都市との交流を促進するため、体験漁業等ブルー・ツーリズムを推進する。

(7) 海面漁業

持続的な生産活動が維持されるよう、研究機関と連携したハタ類、マチ類等の資源管理を推進する。また、マグロやソデイカ、シャコガイ類等の生産拡大を図るため、流通・販売対策の取り組みを支援する。さらに、海洋保護区の設定とブルー・ツーリズムとの連携による新たな海洋・観光・水産資源の創出に向けた取り組みを行う。

(イ) 海面養殖業

登野城魚類養殖場を拠点とするハタ類の魚類養殖やシャコガイ類、クルマエビ、モズク等の生産拡大を図るため、漁業者に対する技術指導や魚病防疫体制を整備するとともに、流通の機能強化を図る。

(重点振興品目)

【耕 種】	さとうきび、水稻、葉たばこ、かぼちゃ、オクラ、ゴーヤー、さやいんげん、レットジンジャー、ヘリコニア、切り葉、パインアップル（生食用）、マンゴー、パパイヤ、パッションフルーツ、かんしょ、薬用作物
【畜 産】	肉用牛
【林 業】	木材、木炭
【水産業】	クルマエビ、モズク、マグロ類、カジキ類、ソデイカ、ヤイトハタ、シャコガイ類、タカセガイ、マチ類、フエフキダイ類

資料：沖縄21世紀農林水産業振興計画（後期）（平成29年5月策定）より抜粋

## 2 認定及び表彰関係

### (1) 「おきなわ食材の店」登録制度

沖縄県では、沖縄県産食材を積極的に活用した料理の提供を通して、県民のみなさんや観光客のみなさんに県産食材の魅力を発信していただける県内飲食店を「おきなわ食材の店」として登録しています。

八重山管内では、令和4年2月までに48店舗が登録されています。

No	店 名	住 所
1	美味食彩花HANA	石垣市 大浜466-15 2F
2	八重山酒家 楽	石垣市 大浜116-2
3	海人居酒屋 源 平得店	石垣市 平得175-3
4	PORTO石垣島	石垣市 登野城86 リゾート琉球株式会社
5	さよこの店	石垣市 登野城170番地
6	ピストロスマイル	石垣市 登野城624 赤嶺マンション101
7	海鮮館 どてっぺん	石垣市 八島町2-4
8	石垣島ダイニング 有頂天	石垣市 美崎町1 福宝堂ビル2F
9	日本料理郷土料理ひろぎ	石垣市 美崎町4-9
10	やいま家庭料理さつき	石垣市 美崎町7-16
11	海人居酒屋 なつや	石垣市 美崎町10-17
12	石垣牛と海鮮の店 こてっぺん	石垣市 美崎町12-7
13	BAR NOBU	石垣市 美崎町12-8 TOMOビル1F
14	海人居酒屋 源 美崎店	石垣市 美崎町16-10
15	郷土料理 琉球の爺(おやじ)	石垣市 浜崎町2-1-7
16	炭火焼肉 たけさん亭	石垣市 浜崎町2-2-4
17	海人割烹 げん	石垣市 新栄町25-5
18	石垣牛焼肉専門店 いしなぎ屋	石垣市 大川43番地
19	辺銀食堂	石垣市 大川199-1
20	漁師の居酒屋 一魚一会(いちぎょいちえ)	石垣市 大川216 ピュアネスイシダ1F
21	石垣牛専門 焼肉金城 石垣島大川店	石垣市 大川278
22	Hau tree gelato ハウ トゥリー ジェラート	石垣市 大川281
23	ゆくい処 海人めし	石垣市 大川286 源ビル1F
24	海人居酒屋 源 総本店	石垣市 大川286 源ビル2F
25	島料理居酒屋 あだん亭	石垣市 大川430 東1F
26	焼肉中華 はるさー	石垣市 大川559 アートホテル石垣島
27	うさぎや 石垣本店	石垣市 石垣1-1
28	沖縄居酒屋 石垣島	石垣市 石垣14-3
29	石垣牛と海鮮の店 てっぺん	石垣市 石垣15-4 ワコーレKAMIJI1F
30	石垣島ベーカリー&スペインレストラン ハイビスキャット	石垣市 石垣257-3
31	Shiraho 家 Café しらほ・いえカフェ	石垣市 白保42-3
32	森の賢者	石垣市 新川49-2
33	和琉ダイニング みらね	石垣市 新川1129-2
34	かぶさ食堂	石垣市 新川418-1 Ra・Ra・Ru Kanan新川103号
35	石垣島ミルミル本舗	石垣市 新川1583-74
36	はりはりはうす	石垣市 新川1627
37	ファミリー居酒屋 源	石垣市 新川730(あやばにボウル内)
38	海人居酒屋 源丸	石垣市 新川2373-13
39	マリティーム	石垣市 新川2459-1 ホテルロイヤルマリンパレス石垣島
40	旬家 ばんちゃん	石垣市 白保13-1
41	石垣島ミルミル本舗 石垣空港店	石垣市 白保1960-104-1 (石垣空港内)
42	ガーデンパナ	石垣市 崎枝239-14
43	はいむるぶし ぬちぐすいbuffet	竹富町 字小浜2930 ホテルはいむるぶし
44	農家民宿 マナ	竹富町 古見202
45	ペンション星の砂	竹富町 字上原289-1
46	西表★星空シーサイドカフェちゅら星	竹富町 字上原546-3
47	琉夏	竹富町 字上原10-357
48	ピアガーデン 国境 (ハテ)	与那国町 字与那国22-4

#### 「おきなわ食材の店」登録基準

- 1 年間を通して、提供しているメニューの半数以上が地産地消メニューであること。
- 2 地産地消メニューとは、県産食材を半数以上使用したメニューであること。



## (2) 第45回沖縄県さとうきび競作会表彰

第45回沖縄県さとうきび競作会において、八重山郡内からは西原茂夫氏（石垣市）、大嶺ふじ子氏（石垣市）、祖納元精幸氏（与那国町）の3氏が沖縄県糖業振興協会会長賞を受賞した。

沖縄本島での表彰式が新型コロナウイルス感染防止のため中止となったことから、11月29日にJAおきなわ八重山支店で八重山地区受賞者の伝達表彰式が行われ、西原氏と大嶺氏が出席され表彰を受けた。

優良農家の部で受賞した西原茂夫氏は、バックホウ深耕や堆肥を十分に投入し、また緑肥も活用した土づくりを実践し肥培管理を徹底していること、ベチベルや月桃を用いた赤土流失防止対策が評価された。

特別優良事例の部で受賞した大嶺ふじ子氏は、さとうきび栽培歴65年。80歳を迎えた今も除草作業を徹底し、スコップで雑草を掘り取り、徹底して圃場から雑草を生やさない取り組みと、丁寧な管理で長年にわたり安定して高単収を維持している取り組みが評価された。

同じく特別優良事例の部で受賞した祖納元精幸氏は、さとうきび栽培歴50年。長年に渡り、多量生産で地域農家の模範となっていること、植付等の受託作業も担っていること、また農業委員として地域農業への貢献や、町内における担い手育成にも寄与していることが評価された。



西原茂夫氏（左）、大嶺ふじ子氏（右）

## (3) 令和3年度沖縄県農林漁業賞 受賞

令和3年度「沖縄県農林漁業賞」は6部門で8個人、2集団が受賞し、八重山管内においては農山漁村地域活性化部門で黒島農業青年クラブ（会員13名、会長：新里剛太氏）が受賞した。

黒島農業青年クラブは、平成18年に竹富町黒島の青年農業者によって結成し、「よい子牛は、よい母牛から」を基本理念に掲げ、削蹄推進による子牛の市場性向上や、島の畜産を支えるセリ市場の清掃、牛の運搬や船積み作業の実施、畜産共進会への出品、牛まつり開催による牛の島のPR、UターンやJターン就農した若い担い手の育成、島の粗飼料自給率向上を目指した牧草コンテストの開催などに取り組んできた。また、現在は冬期の粗飼料不足を解消するため寒地型牧草の栽培に取り組んでおり、地域への波及が見えつつある。



結成10周年記念式典



第5回黒島牧草コンテスト表彰式

#### (4) 令和3年度園芸拠点産地優良生産農家表彰 受賞

令和3年度園芸拠点産地優良生産農家表彰（品目：パインアップル）を石垣市の伊志嶺敏彦氏が受賞した。拠点産地において、生産技術および経営改善の面で創意工夫により拠点産地の模範となる優良生産農家を表彰し、その業績を称えるものである。

伊志嶺氏は、パイン栽培歴が45年の生産農家で新品種の普及に先駆け、県の試験栽培などに積極的に協力している。その経験から多くの品種の特性を熟知しており、品種ごとに最適な管理を行うことにより、品種の持つ特性を引き出し高品質な果実の生産を実現している。同時に、特性に応じた作付け体系を考案し効率的な圃場運営を行っている。

所属する石垣島パイン生果組合名蔵では、技術交流や情報交換を積極的に行い技術向上に努め、地域の若手生産者の相談を受けたり、指導を行うなど担い手育成にも貢献している。販売面では、高品質なパインをPRする独自のパッケージを開発し、産地をPRするとともに高付加価値による差別化販売を実現している。

また、各種管理作業についていち早く機械化に着手し、合理的な作業体系の開発・普及に積極的に取り組んでいる。高齢化が進む生産者の作業負担が軽減されると同時に、新規就農を考える若者等の農業に対する従来のイメージ（農作業＝きつい、割に合わない）を転換することで担い手の確保にも貢献している。この度、このような拠点産地の模範となる伊志嶺氏の活動が評価された。



伊志嶺敏彦・竹子夫妻

(5) 第47回沖縄県畜産共進会枝肉部門 (有) やえやまファームが「脂肪の質賞」を受賞

石垣市で黒毛和種の繁殖・肥育一貫経営を行っている(有) やえやまファームが、第47回沖縄県畜産共進会枝肉部門で、脂肪の質賞を受賞した。脂肪の質賞は、今大会から新設された賞である。脂肪の質を評価するオレイン酸や一価不飽和脂肪酸(MUFA)の値は、全国和牛能力共進会においても、その評価群が新たに設定されるほど重要視されてきている。当受賞枝肉は、オレイン酸含有率57.5%、MUFA含有率64.1%と高い値で、今大会の平均オレイン酸含有率51.5%、平均MUFA含有率56.8%を上回り、脂肪の質が良好な枝肉と評価された。



(6) 令和3年度第33回JA石垣牛肥育部会枝肉共励会 ヤイマ・ブリーダーが最優秀賞受賞

11月27日に、石垣市で第33回JA石垣牛肥育部会枝肉共励会が開催され、ヤイマ・ブリーダー・ランチが最優秀賞を受賞した。当受賞枝肉は、脂肪交雑の細やかさ、バラの厚さ、皮下脂肪の薄さ、歩留基準値などのバランスに優れた枝肉と評価され、枝肉単価3,000円で取引された。ヤイマ・ブリーダー・ランチはJA石垣牛肥育部会員として活動しており、令和2年度第46回沖縄県畜産共進会枝肉部門では優秀賞1席を受賞した実績がある。

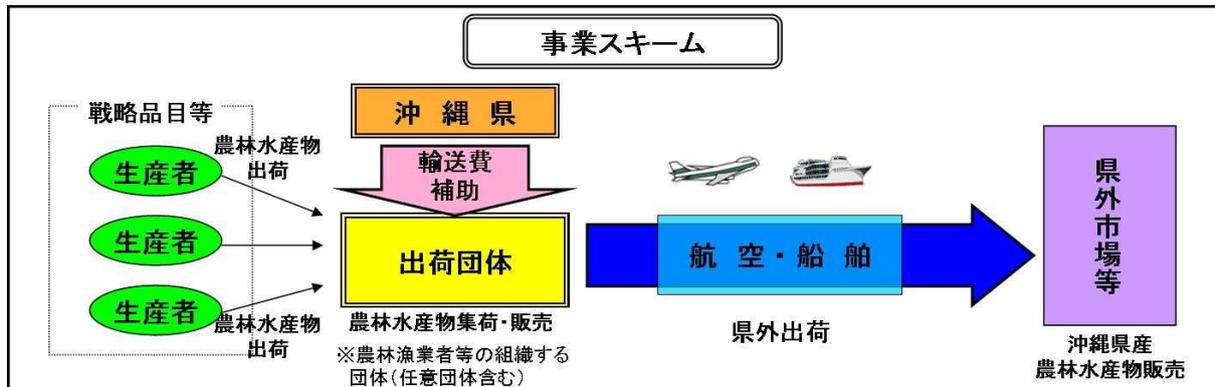
褒賞	生産者	性別	血統			出荷月齢	ロース面積	バラ厚さ	皮下脂肪	歩留基準	BMS	格付	枝肉重量
			父	母の父	祖母の父								
最優秀賞	ヤイマ・ブリーダー・ランチ	去	紀多福	北福波	安福久	28	68	8.4	2.5	75.2	12	A5	512.5
優秀賞	(有) やえやまファーム	去	北百合平	美津照重	糸秀波	31	73	7.1	2.8	74.6	12	A5	522.0
優良賞	(農・株) シロウ牧場	去	光北福	勝忠平	第1花園	34	56	8.0	2.5	73.8	11	A5	480.5



### 3 新たな事業展開

#### (1) 農林水産物流通条件不利性解消事業

沖縄県の課題とされている、遠隔地であることによる流通条件不利性を解消するため、沖縄県では、出荷団体が県産農林水産物を本土出荷する際に要する輸送費の一部を補助する事業を、平成24年度から実施しています。(沖縄振興特別推進交付金を活用)



この事業は、出荷団体が県産農林水産物（戦略品目等）を本土に出荷する際、鹿児島県並の負担となるよう輸送費の一部を補助するもので、輸送費負担が軽減されることによって、本土他産地と同等の条件下での市場競争が可能となり、本土出荷時期の拡大や出荷量の増加が期待されています。

令和2年度の実績は、沖縄県全体で出荷量59,597トン、補助額26億4,158万円、八重山地区では出荷量4,161トン、補助額3億7,721万円となっています。

#### 令和元年度事業実績(出荷量及び補助額)

(単位:トン、千円)

区分	八重山地区		沖縄県全体	
	出荷量(トン)	補助額(千円)	出荷量(トン)	補助額(千円)
野菜	558	50,862	11,881	775,484
花卉	24	3,576	14,625	798,343
果樹	2,007	232,713	3,056	297,220
水産物	1,523	87,289	21,506	597,691
畜産物	34	1,778	8,479	168,375
その他	14	994	51	4,471
合計	4,161	377,212	59,597	2,641,583

#### 補助対象品目

区分	品目		
野菜	さやいんげん	ゴーヤー	レタス
	スイートコーン	ばれいしょ	さといも
	オクラ	かぼちゃ	とうがん
	すいか	メロン	ニンジン
	ピーマン	島らっきょう	トマト
	きゅうり		
花き	輪ぎく	小ぎく	スプレーギク
	洋ラン	トルコギキョウ	ストレリチア
	ヘリコニア	レッドジンジャー	ソリダコ
	観葉鉢物	切り葉	
果樹	マンゴー	パパイヤ	中晩柑類(タンカン、天草、南香)
	パッションフルーツ	シークワーサー	パインアップル
	アセローラ	びわ	アテモヤ
	スターフルーツ	ドラゴンフルーツ	温州みかん
かんしょ	かんしょ		
薬用作物	薬用作物類		
木材	リュウキュウマツ等県産材		
特用林産物	きのこ		
畜産物	肉用牛	豚	
	モルマエビ	モズク	スギ
水産物	ヤイトハタ	海ぶどう(クビレズタ)	アーサ(ヒトエグサ)
	マグロ類	ソデイカ	カジキ類

#### 令和元年度補助額《主な基準額》

##### 【航空】

地域	品目	補助単価
本島	花き・水産物	80円/kg以内
	野菜・果実	60円/kg以内
宮古	花き・水産物	140円/kg以内
	野菜・果実	115円/kg以内
石垣	花き・水産物	145円/kg以内
	野菜・果実	120円/kg以内

##### 【船舶】

地域	品目	補助単価
本島	花き	35円/kg以内
	花き以外	20円/kg以内
	モズク	10円/kg以内
宮古・石垣	全品目(※)	35円/kg以内
	モズク	15円/kg以内

(注)輸送品目のうち、「モズク」は除く

## 4 その他紹介

### (1) 拠点産地認定品目

令和4年3月現在

作物	対象品目	認定市町村	認定年月日
野菜	オクラ	石垣市	平成18年10月17日
	カボチャ	竹富町	平成26年3月26日
花き	ヘリコニア	石垣市	平成19年6月21日
	ジンジャー類	石垣市	平成19年6月21日
果樹	パインアップル (生食用)	石垣市	平成19年8月10日
		竹富町	平成20年3月27日
肉用牛	肉用牛(子牛)	石垣市	平成20年9月24日
	肉用牛(肥育)	石垣市	平成20年9月24日
	肉用牛(子牛)	竹富町	令和2年2月13日
かんしょ	紅いも	石垣市	平成29年5月9日
薬用作物	ボタンボウフウ	与那国町	平成18年3月30日



## (2) 沖縄県農地中間管理機構の概要について

### I. 農地中間管理機構とは

○農地中間管理機構とは、農地の出し手と受け手(担い手)の仲介役として、受け手(担い手)への農地集積・集約化に取り組む「信頼できる農地の中間的受け皿」として「農地中間管理事業」を行う機関です。

○沖縄県では、公益財団法人沖縄県農業振興公社が沖縄県知事より農地中間管理機構として指定を受け、平成26年4月1日より「農地中間管理事業」を実施しています。

### II. 農地中間管理事業の概要

○農地中間管理事業とは、「人・農地プラン」と一体的に推進し、認定農業者、認定新規就農者などの地域の中心的担い手へ農地集積・集約化を図り、農地の有効利用や農業経営の効率化を進める事業として、以下のことを実施します。

- ①出し手から農地を借受け、集約化して受けて(担い手)へ貸付け
- ②機構が預かっている農地の管理(最長で2年間)
- ③必要と判断される場合の農地の利用条件整備
- ④農地集積・集約のために必要とされる農地の売買

○受け手への農地の貸付けについては、借受希望農地のある市町村窓口や農業振興公社で、公募により随時募集を行っています。

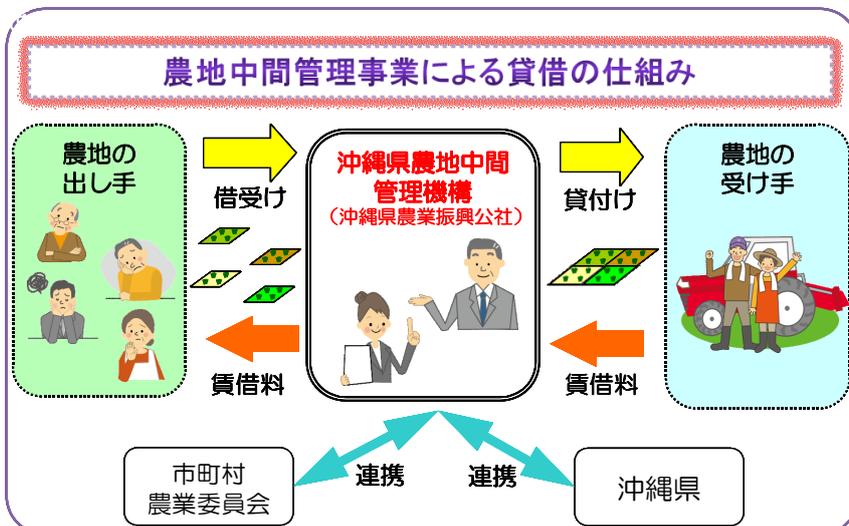
### III. 農地中間管理事業を活用するメリット

#### 【農地の出し手のメリット】

- ①賃料の徴収・支払いは、農地中間管理機構が責任を持って行います。
- ②農地借入れ契約期間の満了時には、農地所有者に確実に返ってきます。
- ③借入れた農地は、借り手が見つかるまで、最長で2年間適切に管理し、その間の出し手への賃料は、機構が支払います。
- ④出し手が農地中間管理機構へ、農地を10年以上貸し付けるなど一定の要件を満たせば、賃借料とは別に「機構集積協力金」の交付を受けられる場合があります。

#### 【農地の受け手(担い手)のメリット】

- ①農地を集積・集約化し、できるだけ、まとまった農地を受け手(担い手)へ貸し付けるので、農業経営の効率化が図られます。
- ②農地借入れ期間の満了時まで、安心して耕作することができます。
- ③機構は、出し手と受け手(担い手)との仲介役として、複数の出し手との個別調整や事務手続き等を行うので、煩雑な手続きが解消されます。



### (3) 国営土地改良事業「石垣島地区」

#### 事業目的

本地区の基幹的農業水利施設は前歴事業等により整備されたが、事業完了以降、空港等の整備による農地面積の減少や受益地域への編入を希望する農家が存在するなど水需要に変化が生じている。

また、施設造成から相当の年月が推移しており、施設の性能低下が生じ、施設の適正な維持管理に多大な費用と労力を要している。このため、前歴事業の改修を行うとともに、新規受益を編入した既存水源（底原ダム・真栄里ダム・石垣ダム・名蔵ダム・大浦ダム）の総合運用による再編整備を行い、地域特性を生かした農業生産性の維持・向上を図り、農業経営の安定に資する。

#### 概要

- ・事業名：国営かんがい排水事業
- ・地区名：石垣島地区
- ・関係市町村：沖縄県石垣市
- ・事業工期：平成26年度～令和10年度
- ・受益面積：4338 ha
- ・主要工事：ダム(改修) 5ヶ所  
頭首工(改修) 3ヶ所  
揚水機場(改修・新設) 6ヶ所  
用水路(新設) 50km  
用水路(改修) 55km

#### ①地区内の営農：栽培作物の多様化



日本一早い田植え  
(超早場米:2月)



施設野菜：熱帯果樹の展開



石垣牛ブランドを支える  
牧草地の拡大

#### ②老朽化施設の改修：施設の維持管理にかかる負担軽減



#### ③新たに石垣島・西部地域へ農業用水を供給：干ばつの解消、高収益作物



水源が無い  
ため、干ばつ  
時は散水車  
による対策  
等が行われて  
きた。



農業用水供給後の営農変化への期待



さとうきびのスプリンクラー散水、施設野菜等の導入が容易になる

# 国営石垣島地区 事業概要イメージ図

できた みる ながみ ぼがすまかい ち くる  
 ~ 太陽め恵み 世界報水 我島美しや 結い心 ~



農業用水供給の営農変化への期待